

恵寿総合病院、金沢大学医学部\*

小濱 隆文、 鈴木 信孝\*

[目的] 日本人に対する Pycnogenol (R) の臨床報告は、極めて少ない。今回我々は、Selenium 配合の Pycnogenol (R) の効果について、日本人における数々の症例について臨床予備試験を行った。[方法] 総症例数 886 例、男性症例は 458 例、平均年齢 42 歳、女性症例は 428 例、平均年齢 43 歳であり、平成 10 年 1 月より 9 月まで、予備試験を行った。Pycnogenol (R) の投与方法は、1) (Pycnogenol (R) 60 mg + Selenium 38.4 mg ) を 7 日間、2) 同量を 7 日間以上で行い、それぞれの臨床専門家が、臨床診断および経過観察を行った。[結果] 五十肩 (231 例/280 例)、肩こり (250 例/300 例)、椎間板ヘルニア (24 例/28 例)、関節炎 (20 例/20 例)、腰痛 (32 例/60 例)、静脈瘤 (1 例/3 例)、スポーツ外傷 (3 例/3 例)、浮腫 (14 例/20 例)、皮膚弾力性・平滑性 (22 例/40 例)、多発性硬化症 (2 例/2 例)、喘息を含むアレルギー (20 例/37 例) 及び不眠症 (85 例/112 例) において改善が認められた。一方、更年期障害 (のぼせ)、妊娠中毒症、手根管症候群、慢性関節リュウマチ、月経前緊張症、筋ジストロフィー、胃あるいは十二指腸潰瘍においては改善はみられなかった。副作用は、棘幹性発疹 (・麻疹) 1 例、散発性発疹 2 例、座瘡 (にきび) 4 例、早朝のめまい 1 例、胃不快感ならびに胃痛 32 例、便秘症 10 例及び下痢症 2 例が認められた。[結論] 1) 日本人に対する Selenium 配合の Pycnogenol (R) による治療では、欧米の投与方法より少量の摂取・短期投与にもかかわらず、通常の治療と同等もしくはそれ以上の効果が認められた。2) Selenium を配合することにより、欧米でこれまで報告された以外の効果が認められた。3) 五十肩・肩こり・椎間板ヘルニアにおいては特に有効性がみられた。